

世界平和を希求する若者であれ

校長 原 田 尚 昭

皆さん、おはようございます。いよいよ平成30学年度を終える節目の日となりました。72回生の皆さんはいよいよ最高学年に、そして73回生の皆さんは中堅学年である2年生となります。この一年間を振り返ってみると、それぞれいろんなことがあったなあ、と思っているのではないのでしょうか。私自身も、昨年4月に校長として40年ぶりに母校の校門をくぐって、君たちを山崎高校の生徒としては勿論ですが、後輩を見る眼で、日々着実にしっかりと成長して欲しいという願いで過ごして来ました。

この一年間私はできるだけ毎朝、限られた時間ですが8時少し前から7時15分過ぎまで校門に立って、「おはよう！」と声をかけることを日課としてきました。授業に立つこともなくなった自分としては、皆さんの生の表情を見ることが出来る、非常に貴重な時間なのです。ですから、元気よく「おはようございます！」と言ってくれる生徒を見ると非常に嬉しいですし、何の反応も示さなかったり、朝から暗い表情で登校する後輩たちを見ると、こちらも気持ちが沈みます。学校という所は、やはり君たち生徒諸君が、「よし、今日も頑張るぞ！」と希望を持って朝登校し、そして夕方下校する時には「今日もよく頑張った！」と、勉強であれ部活動であれ満足して家路に就くということを実現できる場でなければならないと考えています。

さて、そういった何気ない日常の幸せを大事にすることが出来ているだろうかと問い続ける一方で、日本国内や世界情勢に目を転じると、毎日余りにも悲しいニュースや想像を絶する戦争の様子がいろいろなメディアを通じて飛び込んできます。児童虐待の問題もそうですし、つい最近では、ニュージーランドのクライストチャーチで起きた無差別乱射事件は、若い頃何度か同国を訪れて国際交流活動を推進した私にとって、「あの平和な国で何故!？」と大きなショックでありました。人は誰しも平和に暮らしたい、幸せになりたい、という願いを持っているはずであるし、本当は皆で仲良く暮らしたいと思っているはずなのですが、それぞれの国々で、或いは民族間で、様々な事情や歴史的経緯があって中々上手くいかない。私が、目の前にいる君たち山高生諸君に訴えたいことは、理想論であるかもしれないが、常に若者の眼で世の中を見つめ、いつの日にかきっと自分たちの手で世界平和を実現したい、という熱い心を持ち続けてもらいたいということです。その為にも、まずは自分たちの周りから始め、いじめの無い、盗難の無い学校にして、皆が心をつなげて目標とする進路を実現すべく勉強に部活に日々努力しようではありませんか。

この、「世界平和」や「心をつなげて」という言葉を唱える時、必ず聞こえてくるメロディーがあります。ベートーヴェンの交響曲第9番、通称「第九」です。特に、その第4楽章は「歓喜の歌」と呼ばれる合唱があり、皆さんも一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。ベートーヴェンが18歳の時に、「自由・平等・博愛」を掲げたフランス革命(1789)に感激し、貴族も平民もない世の中を作り上げることを理想として、後に書き上げたこの曲は今でも世界中で演奏され歌い継がれています。ドイツ語で「Alle Menschen werden Brüder.(アレメンシェンベルデンブリューデル)」、「すべての人々は兄弟となる。」というこの言葉に、その理想が凝縮されているのですが、実は、この実栗山崎でも2年前から第九合唱団が結成されており、昨年本校合唱部員4名も参加しました。今年卒業した3年2組の荒木さんは、大阪へ就職して行ったのですが、今年10月末に行われる本番に向けて出来るだけ毎週練習に参加するとのこと。私の理想としては、本校吹奏楽部の演奏で、生徒諸君の多くが、できれば全校生徒が、例えば山高祭で歌って、世界平和を訴えるようなことが将来的に出来ればなあ、と勝手に思っています。

さあ、もう後10日もすれば新しい元号が発表され、5月1日には日本国の新たなる時代が始まります。私たちにとっても大いなる躍進の年となることを願いつつ、式辞とします。